

木彫による造形研究 2011

岩井 義尚 *Yoshinao Iwai*
(美術学部)

作品の形の素は、「自然のモノをデッサンしていると、その源は球体、それも機械的な球体ではなく、心地良い球体の単体又は複合体である」と考える。私の創作は、この考えを基に「視覚に訴えかけるのに重要である水平要素・垂直要素」「そのものが創り出す空間」を使い構成している。



岩井義尚木彫展 2008-2011

2011.9.11 ~ 9.18

由美画廊 (静岡県浜松市)



岩井義尚木彫展 2011-2012

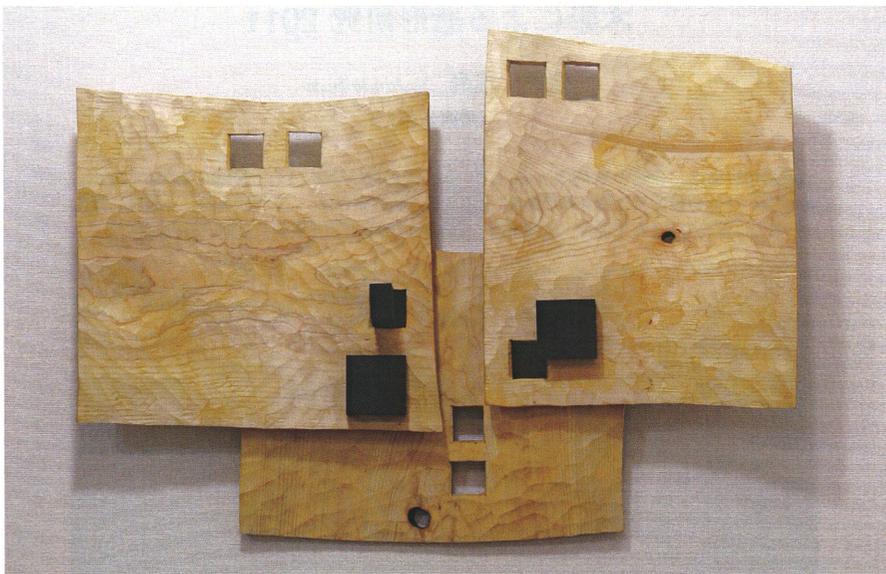
2012.9.08 ~ 9.17

名古屋芸術大学アートスペース T.A.G.IZUTO (名古屋市)

テーマ: 「動き」「流れ」

作品における一つの方向は、テーマからイメージし、形の根源を動物・植物・自然現象から創作要素を探り、構成を考慮し、素材(木)を彫ることにより形(Form)を創り出す手法で具現化した立体とレリーフ、もう一つの方向は、木材の持つ存在感・力強さ・素材感を活かし形を彫り出したモノの複数を組合わせて表現した立体とレリーフがある。

平面作品は、ペンで描く多くのフリーハンドの線の重ねにより、空間を演出表現している。



Form 1103

檜 (ヒノキ) + ウエンジュ + シタン
H44 × W60.5 × D8.5

3枚の彫りあとを残したヒノキ板に窓を意識した四角い穴を開け、いくつかの穴と単独で出巾の異なるウエンジュとシタンの角材を使い、構成して「街」を表現した。



台形のケヤキ板と、カヤとサクラ板を曲線で切り抜いて削り出した2枚を構成して、アンバランスな形の中に「やすらぎ」を表現した。

Form 1104

桜 (サクラ) + カヤ + 樺 (ケヤキ)
H56 × W38 × D4

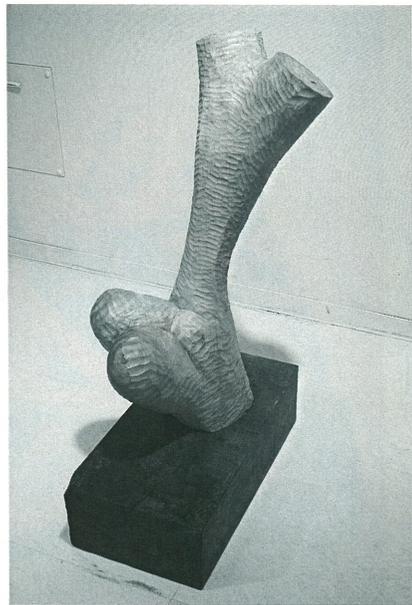
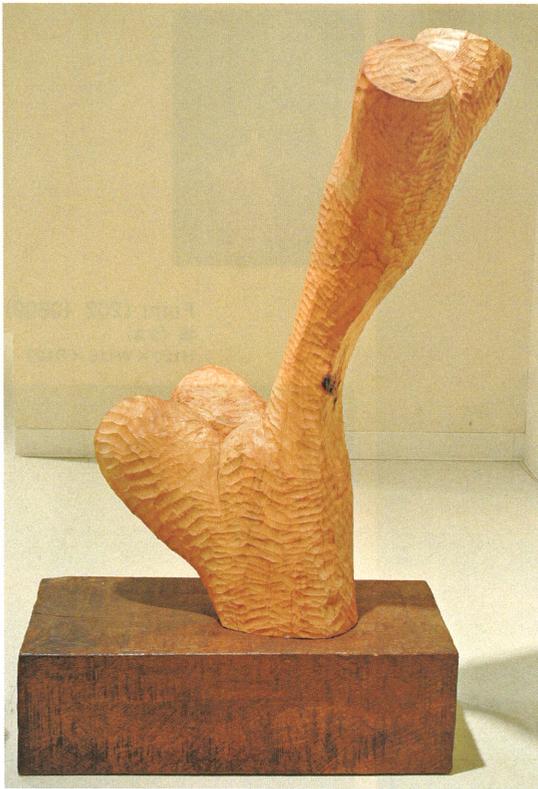


Form 1102

樺 (クス) + 樺 (ケヤキ)
H57 × W58 × D24

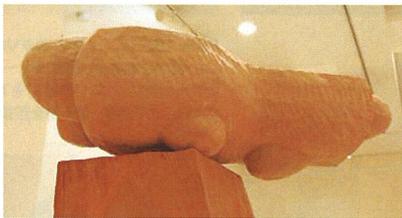
自然のままのクスの枝材を使い、人間の胴体を横たわせた様な動きのある見せ方をした上に、ウロになった部分を彫り込み、内側にうごめく心を表現した。



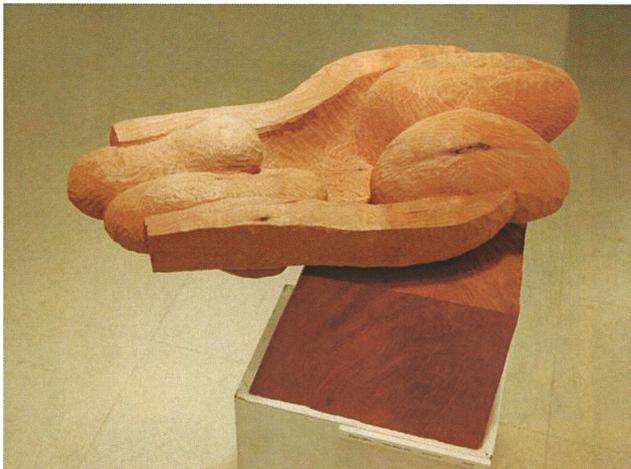


Form 1101
樟（クス）+ 樺（ケヤキ）
H70 × W45 × D32

クスの原木枝材をそのまま使用して、
胴の部分を彫り込み細くしボリュームを
出し、トルソー表現した。



Form 1201
桂（カツラ）+ 樺（ケヤキ）
H42 × W46 × D34



カツラ材を使用し、ドロー
イング（アイディアスケッ
チ）を元に胴の部分をマ
イナスに彫り込み象徴化
したボリュームを残した形
でトルソー表現した。

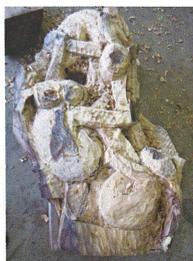


Form 1204 「遊No.7」

樟 (クス)
H116 × W80 × D17

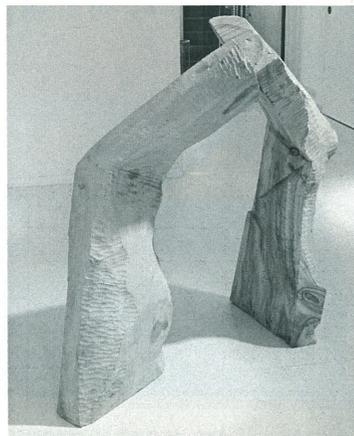
この Form 1204 「遊」 シリーズは、2009 年度からの制作作品と同様に、三人の子供達が遊ぶ姿の動きのある形を組み合わせ、「流れ」「躍動」を表現した作品である。
2009 年度・2010 年度と同様に樟 (クス) の木を使用している。

※立体作品の木は、名古屋芸術大学がある北名古屋市米野にある神社 (公民館を建てるために伐採された) の木を使用している。



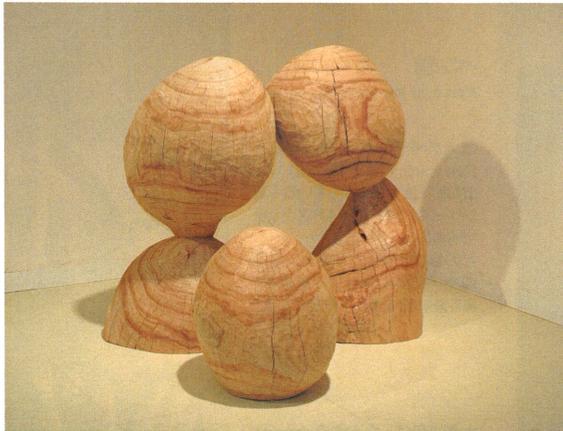
Form 1202 (0609)

樟 (クス)
H120 × W110 × D100



Form 1202 は、一本の曲がりのあるクスの木を使い、曲がりを生かし電気チェーンソーで二つ割りと面出しを行い、二つの部材をアーチに組み、場を区切ることで前側・後ろ側を意識させる…表現をした。



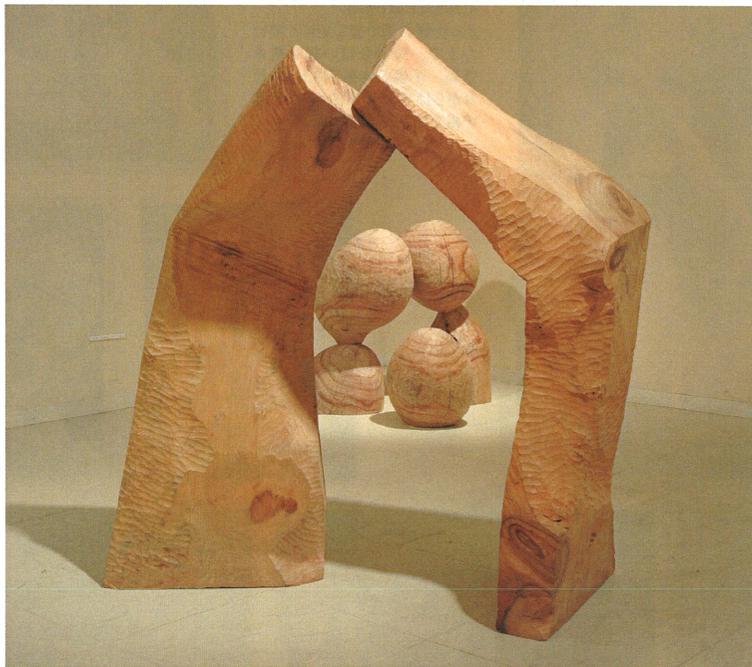


クスの原木を彫り込み、切り分けた3体の単純な球状形態を構成し、家族の終結と和を表現している。

Form 1203

樟 (クス)

H90 × W100 × D80



Form 1203 を Form 1202 越しに見ると、イメージ的に家へ入った様に感じることが出来る。

「動き」を意識し、ドローイング (アイディア) を元に、カバ種の水目桜を使い彫り出している。

Form 1105

水目桜 (ミズメザクラ) + 樺 (ケヤキ)

H34 × W51 × D35



ペン画

Pen and ink drawing

三人の子供が遊ぶ形、構成を Pen と ink で水彩紙に描いた。2009 年度から制作している「遊シリーズ」のアイデアスケッチでもある。どの様なモチーフであれ、3つのモノを組み合わせた構成は、ある意味完成された作品になる。

左側下段は、左上段の drawing の描きはじめである。ある程度の線で構成を考え描いた上で、背景を短い線を積み重ね、子供の体を浮き上がらせながら体本体のボリュームを細い線で描き表現している。

